

国立公園の魅力向上に向けた活動支援

磐梯朝日国立公園における国立公園満喫プロジェクト業務とジオツアーの事例紹介

キーワード 国立公園満喫プロジェクト, 登山道整備, 地域協働, コーディネーター, 赤色立体地図, デジタルコンテンツ, ジオツアー, 防災・観光・教育

環境部 館野 真澄・すぎもと けんすけ
東北インフラ技術部 鈴木 太郎

はじめに

環境省では、国立公園の魅力向上に資する「国立公園満喫プロジェクト」を展開しています。訪日外国人による公園利用も増え、登山やフィールドツアーなど様々なアクティビティを気軽に楽しめるようになった一方で、オーバーユースやマナー低下等により登山道の荒廃が進んでいるため、登山道沿いの植生保護や、利用者が安全に移動できるアプローチルートの整備が急務となっています。

アジア航測では、「磐梯朝日国立公園磐梯・吾妻猪苗代

地域満喫プロジェクト推進等業務」を受託し、登山道整備情報の一元化・可視化のほか、現地での登山道整備作業や地域協議会等の会議運営補助等を実施しました。また、業務とは別途、アジア航測の自主的な取組として、自然や地形の特徴を押さえた、わかりやすいコンテンツを作成し、国立公園を訪れる利用者にその魅力を伝えるサービスも提供しています。ここでは、その事例を紹介します。

西吾妻山、安達太良山、磐梯山における地域協働型の登山道保全作業

磐梯朝日国立公園磐梯・吾妻猪苗代地域の「国立公園満喫プロジェクト」では、荒廃した登山道の現状を改善するため、登山道保全作業に関する勉強会や、関係者・希望者を募って実際に補修作業等を行うイベントも開催されています。

(1) 地域協働のコーディネート

登山道保全作業は、安全な登山道をつくることが第一の目的ですが、関係者が協働して作業することでコミュニケーションを深め、山々に係る地域コミュニティの活性化も重要視されています。本業務では、様々な主体の参加者が円滑に活動できるよう、関係者間を繋げるコーディネーターとして機能するよう意識して声掛けや情報共有を行いました。



図1 登山道保全作業の成功事例

(2) 登山道修復方法の普及支援

登山道保全作業では、①横断溝の整備（水筋による登山道の洗堀を防止）、②植生の保全・土壌流出防止（根巻きシート等による保護）、③浮石の移動等を行いました。その結果、モニタリング調査では、横断溝の効果が確認されています(図1)。また、安達太良山では山岳関係者を対象とした勉強会が開催されており、登山道の修復方法を学ぶ場をつくることで、指導者育成を支援しています(図2)。

(3) 登山道保全活動に関する会議運営補助

行政関係者、山岳会等が一同に会し、登山道の現状や今後の整備・維持管理方針等を協議する会議では、アジア航測は事務局運営補助に従事し、登山道の現状がわかりやすく伝わるよう、登山道 GIS データによるマップや、保全作業後のモニタリング結果等をまとめた会議資料を作成しました。



図2 アドバイザーによる現地勉強会（R6年度）

磐梯山の魅力を伝えるジオツアーとコンテンツの作成

(1) ジオツアーの実施背景と活動の概要

国立公園の魅力を伝える取組として、国立公園の自然や景観、地形の成り立ちを分かりやすく紹介するコンテンツが求められています。アジア航測では、赤色立体地図によって地形の詳細な特徴を可視化したチラシやパネルなどを作成し、教育・観光分野で活用してもらう取組を進めています。その一環として、令和7年5月10日に開催された「磐梯山地質の日ジオツアー 2025」にて、磐梯山ジオパーク協議会と連携し、後述するようなツアーの企画から現地支援、事後のデジタルコンテンツ制作を支援しました。

(2) ジオツアーの企画・チラシ制作協力

本ツアーは、磐梯山に伝わる伝説と昔話を切り口に、磐梯山の山体崩壊によって形成された岩なだれ地形や奇岩を巡りながら、自然の成り立ちと文化的背景を学ぶことを目的として実施されました。アジア航測は、ツアーの企画段階から参画し、赤色立体地図を表示させた 3D ビューワを活用して、ツアーの主旨や見どころを分かりやすく示したチラシの制作に協力しました(図3)。



図3 「磐梯山ジオパーク地質の日」チラシ（一部抜粋）

(3) 現地ツアーの支援

ツアー当日は、アジア航測も解説者の一員として参加し、磐梯山山麓の奇岩にまつわる伝承を紹介しながら、景観を作り出した岩なだれ地形の成り立ちについて赤色立体地図のパネルを用いて解説しました(図4上)。

また、磐梯山のダイナミックな地形の成り立ちをより俯瞰的に体感してもらうために、屋内にて ArcGIS Online を活用した 3D バーチャルツアーを開催しました(図4下)。

おわりに

本稿では、磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域で実施した取組を紹介しました。今後も、このような地域協働の取組の支援とデジタルツールの活用を両輪として、防災・観光・教育など幅広い分野への展開を目指していきます。執



図4 ジオツアーでの赤色立体地図活用

当時の人々が奇岩を目にして抱いた畏怖や畏敬の念、そこから生まれた伝承に触れるとともに、磐梯山全体の壮大な成り立ちとの結びつきを理解することを支援しました。

(4) ツアー後のデジタルコンテンツ制作

ツアー参加者

や公園利用

者が、観光・学

習の両面から活

できるよう、

ArcGIS Online

のストーリー

マップ機能を用

いたデジタルコ

ンテンツを作成

しました(図5)。

現地の景観写

真やツアーの内

容を、3D マッ

プと連動させる

ことで、磐梯山

の壮大な成り立ちを直感的に理解できるよう工夫しました。



図5 磐梯山ジオパーク「地質の日ジオツアー」2025 (PC/スマートフォンで閲覧可)

